産業人クラブだより ―かけはし―

産業人烈伝

精密レーザー〝不動の地位〟

片岡製作所・片岡宏二社長 ㊤

9月9日、京都市内のホテルで2012年春に藍綬褒章を受章した片岡製作所の片岡宏二社長を祝う盛大なパーティーが開かれた。片岡社長が地元で営々と築き上げてきた人脈を映し出し、京都にゆかりのある政財界関係者らがこぞって出席。「厳しいが、優しい人」（前原誠司国家戦略・経済財政担当相）、「我々の誇り」（山田啓二京都府知事）、「気の置けない仲間」（立石義雄京都商工会議所会頭）と、惜しみない賛辞を贈った。

「当社のような小さな会社に光を当て『世界に誇れる京都の企業』と、認めていただいた」。片岡社長は受章の理由を心から喜ぶ。今でこそ「超精密レーザーの片岡」という不動の地位を確立したが、起業した1968年から80年代前半までは、さまざまな技術に試行錯誤で挑戦するベンチャーそのものだった。

72年には半導体の駆動に使う直流安定化電源装置を、80年代初めには自社製マイコンとソフトで加工ロボットを開発。一時は液晶ガラス基板搬送装置や、光多重通信装置も手がけた。小さな市場でも技術では常に先行する「ナンバーワン企業」（片岡社長）を目指してきた。事業の礎となるレーザー加工装置に進出したのも、需要が生まれた初期の86年。幅広い顧客ニーズに応えるため、レーザー発振器からの一貫した開発体制を迅速に整えた。01年には業界初のレーザーダイオード励起技術による高出力パルスレーザーも完成した。

同社の顧客には微細な精密加工が競争力のカギを握る大手メーカーが多い。顧客の最先端のモノづくりにとって同社は欠かせないパートナーだ。片岡社長は「レーザー加工装置の受注は、顧客の要望を踏まえたテスト加工から始まる。ニーズを的確に反映した技術開発で創業以来付き合っている顧客もある」と説明する。

「夜に仲間と遅くまで飲んだ後でも、必ず会社に戻って仕事をする。片岡さんはパッション（情熱）の固まりだ」。ニチコンの武田一平会長は、片岡社長の〝モーレツ経営者〟ぶりを明かす。自ら一番働き、厳しくも社員思いの人柄で会社を強力に引っ張ってきた。京都を代表する中堅企業としての誇り、もある。

（3回連載）

（京都市南区久世築山町140）

9月9日に京都で開かれた褒章祝賀会（片岡社長㊧と妻の巴さん）

トップインタビュー

震災の避難場所に貢献

震度7に耐える社屋提供

北関東綜合警備保障社長（栃木産業人クラブ）　青木　勲氏

北関東綜合警備保障（宇都宮市、青木勲社長、028・639・0300）は栃木県全域と群馬、茨城県の一部で施設警備などのセキュリティーサービスを手がけている。少子高齢化や災害といった課題に直面するなかで、地域貢献や女性の活用についての考えを青木社長に聞いた。

（栃木・江上佑美子）

◇

―東日本大震災直後に本社ビル「あんしんかん」に住民や避難者を受け入れました。

「阪神淡路大震災をきっかけに、災害対策型のビルの建設を検討し、2004年に震度7にも耐えられる構造の本社社屋を新設した。緊急事態が起きた際に装置や非常時も使える水洗トイレなどを設けるといった事前の準備が生きた。屋上にはヘリポートが、1階には診療所もある。何かが起きた際に、『想定外の出来事だった』というのは言い訳にすぎない。地域の避難場所、コミュニティーの場としてあんしんかんの認知度は高まっている」

―10年には栃木サッカークラブ（栃木SC）のオフィシャルパートナーになりました。

「チームだけでなくサポーターを応援する活動もしている。10㎡の大きな旗を作り、提供したのはその一環だ。本業が赤字では社会貢献活動はできない。地域に寄与するためにも、企業は利益を出せる体質でなければならない」

―レスキュー隊などで活躍する女性社員が増えていますね。

「事務だけでなく現場で働きたいという意欲がある女性が増えている。仕事も育児もきちんとこなせるよう応援している。女性の管理職も今後は誕生させていきたい」

―今後、警備会社にはどのような役割が求められると考えていますか。

「鍵などを預かる警備会社の財産は『信頼』だ。われわれの仕事は泥棒の侵入を防ぐといったことだけではない。これまでに構築したノウハウや信頼を生かし、高齢者向けの新サービスを始める予定だ。どのようなことができるかを考えるのは楽しい。脳を使って新しいサービスを提供していく」

あおき・いさお　57年（昭32）栃木県立大田原高卒、同年栃木県警察本部採用。74年北関東綜合警備保障入社、93年社長。栃木県出身、74歳。

小さくても本物

四国アクト　無機系水質浄化剤が好調

アクト（徳島県吉野川市、尾北俊博社長、0883・24・8887）の無機系水質浄化剤「水夢（SUIMU）＝写真」の受注が好調だ。2012年度は7000万円を売り上げ、13年度は1億5000万円の見通し。

02年に「土壌汚染対策法」が公布されたのを受け、環境に関連したビジネスが発展すると考え、公共下水の設計を中心にした補償コンサルタントから環境ビジネスに参入、商品開発を始めた。

水夢はゼオライトを主成分にした水処理剤で、汚水、泥水、産業排水を無害化する無機系中性系の凝結剤。排水の中に存在する化学物質や有機物を除去する。

水性塗料、水溶性切削油などを使用する工場では廃液をそのまま産業廃棄物業者に委託するのが一般的。大規模な処理施設のない中小企業にとって廃液全てを廃棄処分することは費用負担が大きく、削減が課題となっていた。

タンクに廃液と水夢を混ぜて廃材と水に分離、水は濾過器を通して排水、分離された固形物のみ処理するため大幅に処理コストが低減される。

11年には「四国産業技術大賞」の技術功績賞最優秀賞を受賞するなど外部の評価も高まってきた。尾北社長の「社会に絶対に役に立つ」を信念に新製品開発に対する挑戦は続く。

トピックス

東京ハタノシステム　バイオマス発電に力

ハタノシステム（東京都目黒区、波多野容子社長、03・5740・6261）は自家発電設備の施工が主力。2010年に新事業として、ヤンマー製の木質バイオマスガス化コジェネレーション（熱電併給）システムの取り扱いを始めた。最初の施工案件として生長の家（東京都渋谷区）の山梨県内の施設に納入が決まり、13年春に稼働する予定。ヤンマー特約店で同システムを設計施工する初の事例だ。

チップ化した間伐材などを使い電力と熱を生み出すシステム。ヤンマーが08年に発売し、これまで地方自治体などに4件を販売・施工。東日本大震災以降は脱原子力エネルギーの流れもあり、12年度は約3件の納入が決まるなど販売数が増えている。従来はヤンマーが施工していたが、受注増に対応するため特約店による施工に力を入れることにし、自家発電設備の施工実績や技術力を勘案しハタノを選んだ。

政府はバイオマス事業化戦略を決定し、現時点で約0.3%のバイオマス発電の割合を20年までに5%へと引き上げる方針。市場拡大が期待される中、ハタノは今回の実績を武器に独自営業に力を入れる。「専任の営業、エンジニアリング、保守担当者を置き、バイオマスシステム市場を拡大する」（波多野裕一専務）考え。市場調査を重ねてきた森林組合連合会など全国の林業関係者に提案する計画だ。

ヤンマーのバイオマス発電設備

12―1月の予定

【12　月】

◇11日（火）栃木産業人クラブ「日本機械学会栃木ブロックとの交流会」（宇都宮市、ホテル東日本宇都宮）

◇12日（水）埼玉産業人クラブ「分科会」（さいたま市浦和区、日刊工業新聞社さいたま総局会議室）

◇12日（水）名古屋産業人クラブ「第29回永井嘉吉記念賞選考委員会」（名古屋市中村区、名鉄グランドホテル）

◇13日（木）名古屋産業人クラブ・女性部会「学習会＆年末懇談会」（名古屋市中区、名古屋東急ホテル）

◇14日（金）新潟産業人クラブ「12月の社長会・忘年会『健康、即　経営法～日本伝承医術にみる気脈経営』　講師：日本伝承医学協会理事・島田修氏、『リスクマネジメントと運命学』・『2013年の運勢』　講師：五行学研究所主宰・中島学氏」ゲスト講演会（新潟県五泉市、咲花温泉　望川閣）

◇15日（土）埼玉産業人クラブ・埼玉ビジネス研究会「第10回ビジ研親睦ゴルフ大会」（埼玉県上尾市、大宮ゴルフコース）

◇15日（土）埼玉産業人クラブ・埼玉ビジネス研究会「〝望〟年会」（さいたま市大宮区、蕎麦茶屋　桜）

◇17日（月）茨城産業人クラブ「忘年会」（水戸市、山口楼）

◇19日（水）埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会「第32回研究室訪問シリーズ　細田彰一研究室から学ぼう」（埼玉県宮代町、日本工業大学）

【2013年1月】

◇16日（水）埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会「2013年新春賀詞交歓会」（さいたま市浦和区、浦和ロイヤルパインズ）

◇16日（水）日本産業人クラブ連合会、東京産業人クラブ、日刊工業新聞社共催「新年賀詞交歓会」（東京都千代田区、ホテルグランドパレス）

◇16日（水）神奈川産業人クラブ「合同新年祈梼会」（神奈川県鎌倉市、鶴岡八幡宮）

◇17日（木）新潟産業人クラブ「新年会・新春落語会」落語：三流亭楽々〈社会人落語日本一決定戦最優秀名人〉（新潟市中央区、新潟グランドホテル）

◇22日（火）東京産業人クラブ・東京産学交流会（サザンクロス）賀詞交歓会と新春講演会「宇宙エレベーターの建設構想」講師：大林組・石川洋二主席技師（東京都大田区、三井ガーデンホテル蒲田）

◇22日（火）大阪産業人クラブ「新春互礼会」（大阪市北区、ANAクラウンプラザホテル大阪）

◇23日（水）いわき産業人クラブ「2013年新春講演会・合同新年会」（福島県いわき市、パレスいわや）

◇25日（金）中国四国産業人クラブ「春の交流会・CVG中国祝賀会」（広島市中区・リーガロイヤルホテル広島）

◇30日（水）神奈川産業人クラブ「賀詞交歓会・講演会」（横浜市西区、横浜ベイシェラトンホテル＆タワーズ）

◇31日（木）名古屋産業人クラブ「新年賀詞交歓会＆新春経済講演会」（名古屋市中村区、名古屋マリオットアソシアホテル）

新入会員

滋賀産業人クラブ

▽**石田　晃朗氏**　甲賀市石部北1の4の26、0748・77・2456、樹脂フィルム製造販売）

コスト低減など技術開発報告会

宮城産業人クラブの通研電気工業

宮城産業人クラブ副会長会社の通研電気工業（仙台市泉区、小林邦英社長、022・377・2800）は11月8日に、2012年度の技術開発報告会を開いた（写真）。小林社長は「電気事業を取り巻く環境は非常に厳しいが、今後とも設計、製造、保守サービスまで一貫して行う当社の強みをさらに伸ばす研究開発に期待している」とあいさつした。

コスト低減や業務改善、新製品や新技術の開発などの七つのテーマを報告した。同社の研究開発部門、東北電力などグループ企業の関係者約140人が参加し、活発な質疑応答が行われた。

マレーシア事情　中島氏が講演

埼玉産業人クラブ

埼玉産業人クラブ（増田文治会長＝マスダック社長）は11月14日、さいたま市浦和区の日刊工業新聞社さいたま総局で、2012年度第6回分科会を開いた。アジア連携委員会（東京都港区）の中島耕一郎副委員長がマレーシアについて講演した（写真）。

中島副委員長は、同国政府による国民車優遇政策の見直しなどについて説明。「今後、現地で日系自動車関連の需要がさらに増大する」と述べた。また、同国の優位性としてインフラ、地理、対日感情などを挙げ「今こそ日本の中小企業はマレーシアを目指すべきだ」と強調した。

終了後の懇親会には、同委員会の田中嘉一事務局長も参加し、アジア各国の実情などについて語り合った。

寺島日総研理事長　日本の進路で講演

東京・女性部会

東京産業人クラブ・女性部会（佐川八重子会長＝桜ゴルフ社長）は11月20日、東京都千代田区のホテルグランドパレス4階ゴールデンルームで「11月例会」を開いた。会員企業、会員企業の紹介による初参加者ら計約40人が出席した。

寺島実郎日本総合研究所理事長（写真）が登壇し、「世界構造転換と日本の進路」と題して講演した。会場に配布した最新のデータを基に、日本の貧困化や米国の対中東戦略の変化など自身の時代認識を披露。質疑応答では「日本に足りないものは何か」「劣化した若者をよみがえらせるにはどうしたらよいか」などさまざまな質問が飛び交った。

講演終了後には初参加者8人があいさつ。前衆議院議員の中林美恵子氏は「女性経営者の皆さまからエネルギーをもらえた」とあいさつ。その後佐川会長らが、9月に女性部会として実施した長崎視察旅行の報告を行った。

学生らが熱心に企業ブース訪問

埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会

埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会（佐藤達雄会長＝アーベルソフト会長）は11月29日、埼玉県鳩山町の東京電機大学理工学部キャンパスで学生たちによる企業研究会（アクティブプロモーション）を開いた。会員9社が参加。就職面接解禁を直前に控えた3年生ら数多くの学生らが企業ブースを訪れ、熱心に企業研究を行った（写真）。

1階ロビーに設けられた企業ブースには、開会直後から数多くの学生が企業研究に訪れた。企業担当者と熱心に会話する学生たちの後ろで、順番待ちをする学生の姿も多く見受けられた。企業側スタッフは「大変良く勉強している学生がいる。厳しい就職環境を反映してか、企業と向き合う姿勢に真剣さを感じる」などと学生の印象を語った。

終了予定時刻が過ぎても企業ブースは熱心に企業研究を行う学生であふれていた。

工作機械製造の唐津鉄工所見学

大阪産業人クラブ

大阪産業人クラブ・産業人フォーラム部会（田中太一朗＝タナカカメ会長）は11月14、15の両日、産業視察で佐賀県を訪れた。国内で初めて工作機械を製造した唐津鉄工所（佐賀県唐津市）の見学会（写真）が実現した。

当日は同鉄工所の3代目社長である竹尾啓助社長が会社概要を説明。続いて超大型旋盤やロールなどの生産現場を視察した。

同社は1909年に創業。戦艦大和・武蔵の砲身の孔を削った、中ぐり盤も同社が開発した。創業以来の理念である〝用うるに利有るをつくり、売るに利有るものを追わず〟の精神を現在も受け継いでいる。竹尾社長は「買っていただき、使って喜んでいただく機械づくり」の精神を全社員が目指すべき理想に掲げるなど、言葉の端々に技術者として誇りの高さをのぞかせた。

その後、二手に分かれ、観光組は焼き物の町として有名な唐津市の中里太郎右衛門窯や柿右衛門窯を訪問。ゴルフ組のグループは佐賀ロイヤルゴルフクラブでプレーし、ワークステーションの末吉晃一郎社長が優勝した。

阿波スピンドルなど工場見学会

四国産業人クラブ

四国産業人クラブ（西山彰一会長＝宇治電化学工業社長）は11月23、24の両日、徳島県内で工場見学会とゴルフ大会を開き、会員ら15人が参加した。質の良い糸を作るのに必要不可欠な部品であるスピンドル製造の阿波スピンドル（吉野川市）では、製品や人材育成について木村雅彦社長から説明を受けた。さまざまな切削加工現場を目の当たりにし、参加者は熱心に質問（写真）。社長の熱心な人材育成方法に感銘を受けていた。

西精工土成工場（阿波市）では、ナットなどの製造工程を感心しながら見学。その後、徳島市内の同社本社に移動し、西泰宏社長から経営理念や人材教育についての講演では、社長のリーダーシップと社員を大事に育てる経営に一行は感嘆しながら聞き入った。

その後、徳島市内の日本料理店「やまもも」で懇親会を開き、訪問先の木村社長と西社長も加わり親交を深めた。

24日は阿波市のJ.クラシックゴルフクラブでコンペを開いた。前日の雨から心配された天候もスタート前には上がった。向阪敬日東河川工業（高松市）社長がネット72・2（グロス101）で優勝。準優勝は畑下義雄IIS協同組合（広島市西区）代表理事。ベストグロス賞はグロス84で松本陵志フジケンエンジニアリング（松山市）社長が手にした。

九州の先端研究開発状況を解説

九州・山口産業人クラブ

九州・山口産業人クラブ（花田寛会長＝キューヘン社長）は4日、福岡市博多区の博多エクセルホテル東急で2012年度「講演と忘年の会」を開いた。広実郁郎九州経済産業局長が「最近の経済情勢について」と題して講演した（写真）。九州の経済概況に加えて、自然エネルギーや有機エレクトロ・ルミネッセンス（EL）、水素など九州が先端を走る研究開発の状況を解説。「いろいろな新しい芽はあり、伸ばしていくために経済産業省が支援する。同時にオール九州で取り組めば加速するため、企業にも応援してもらいたい」と力を込めた。

講演会後には約30人が参加し、広実局長を交えた忘年の会へと移った。花田会長が「厳しい経済状況の中、総選挙を控えているが、しっかりした産業政策の行く末を考えてくれる政治に期待したい」とあいさつ。また山口修司副会長・北九州支部長（C&Gシステムズ会長）が「今年は仕事のやりがいがあった。来年は今年以上に会員企業に発展してほしい」と12年最後の催しを締めくくった。